

平成25年度 国立吉備青少年自然の家教育事業

ウーリークラブ～吉備の里山で子育て～

年4回シリーズ事業

1. 事業の目的(趣旨・ねらい)

吉備の里山での活動や、講師による子育てに関する講義を受けることで、幼児期の体験活動や基本的な生活習慣を身に付けることの重要性を知る。

2. 事業の概要

(1) 期日

第1回 5月26日(日) 日帰

第2回 6月23日(日) 日帰

第3回 9月28日(土)～29日(日) 1泊2日

第4回 2月 8日(土)～ 9日(日) 1泊2日

(2) 対象

幼児(未就学の4,5,6歳児)とその保護者(家族)
全4回に参加できる方。

※兄弟(小学生)・弟妹の同伴については受け入れ可。

(3) 募集定員・応募家族数 16家族・16家族

(4) 各回参加家族数

第1回 15家族・50名 第2回 16家族・53名

第3回 15家族・57名 第4回 9家族・27名

※第4回は岡山県に20年ぶりの大雪があったため、欠席家族が多かった。

(5) 講師等

保護者プログラム講師

第1回 川崎医療福祉大学医療福祉学部教授 保野 孝弘 氏

第2回 就実大学大学院人文科学研究科教授 村中 由紀子 氏

第3回 NPO 法人吉備野工房ちみち

第4回 ミュキ・アカデミー 内藤 みゆき 氏

子どもプログラム講師

第3回 岡山県シェアリングネイチャー協会

ボランティア 第1回 8名 第2回 5名

第3回 11名 第4回 4名

(6) 企画・運営のポイント

- ①参加家族間の交流を深め、継続して子育てをともにする仲間となるように、4回のシリーズ事業として計画した。
- ②幼児をもつ保護者を対象としていることから、参加しやすくするため、乳児の託児を用意し、小学生の兄姉の参加も受け入れた。
- ③初めての利用が宿泊となると、申込みの際のハードルが高くなることが考えられたため、最初の2回を日帰り事業として施設や環境に慣れてから宿泊を実施するようにした。
- ④保護者自身が自然体験を経験するとともに、講義をじっくりと受講できるように、プログラムに「家族で活動する時間」、「保護者プログラム・子どもプログラム・託児に分かれて行う時間」を設けた。
- ⑤保護者プログラムについては、子育てのベースとなる「基本的な生活習慣」や「体験活動」の重要性を学ぶ講義を回の前半に設けた。
- ⑥第3回は、保護者の交流を深めるとともに子育ての悩みを共有して互いの経験からそれを解決するワークショップを計画した。
- ⑦第4回は、保護者からいただいた講義内容のリクエストに「子どもとの接し方(しかり方・ほめ方)を知りたい」という意見が多かったことを踏まえて、講義のテーマ・講師を選定した。
- ⑧第4回では、1日目に家族単位での活動を設けた。保護者がネイチャークラフトや凧作りを子どもに教える機会を設け、「親子の関わり」が顕著にできるようにした。さらに、2日目の講義で1日目の関わりを思い出す時間を設けることで、講義の理解度を深めるようにした。
- ⑨第4回では、予想外の積雪があったため、当初予定していたプログラムを変更して雪遊びも選択できるようにした。
- ⑩第4回の最後に、全員の感想を共有できる機会を設けた。

3. 活動の内容等

(1) 第1回

5月26日(日)	
9:30	受付
10:00	はじめましての会
11:00	きびを探検しよう
11:45	お弁当
12:45	ファミリーツリーを探そう
14:30	保護者・子ども・託児別プログラム
16:30	またねの会
	<input type="checkbox"/> 保護者プログラム 講義「眠りの科学 早ね早起き朝ごはん 元気モリモリ やる気グングン 笑顔ニコニコ！」 講師：川崎医療福祉大学医療福祉学部教授 保野 孝弘 氏
	<input type="checkbox"/> 子どもプログラム 指導：当施設 企画指導専門職 全体：自然と親しむ活動(めだまっち) 選択：自然探検隊、読み聞かせ、おにごっこ などの昔遊び、昼寝



【はじめましての会】



【ファミリーツリー】



【めだまっち】

(2) 第2回

6月23日(日)		
9:30	受付	<input type="checkbox"/> 保護者プログラム 講義「子どもの心を育てる環境づくり -感情体験の大切さ-」 講師：就実大学大学院人文科学研究科教授 村中 由紀子 氏 <input type="checkbox"/> 子どもプログラム 指導：当施設 所長・企画指導専門職 はっぱあつめ, はっぱじゃんけん, 読み 聞かせ, お絵かき
10:15	おひさしぶりの会	
11:00	お気に入りの場所を見つけよう (ファミリーツリー含む)	
12:30	お弁当	
14:30	保護者・子ども・託児別プログラム	
16:30	またねの会	



【ファミリーツリー】



【保護者プログラム】



【読み聞かせ】

(3) 第3回

9月28日(土)		9月29日(日)	
13:30	受付	6:00	起床・荷物整理
14:00	おひさしぶりの会	7:15	朝のつどい・朝食・移動
14:30	親子でみんなでチャレンジゲーム	9:30	保護者・子ども①・託児別プログラム
16:15	就寝説明・移動	12:00	昼食
17:20	夕べのつどい・夕食	13:30	保護者・子ども②・託児別プログラム
18:45	選択活動〔夜の探検(ファミリーツリー含む), 読み聞かせ, カプラ, 自由, 入浴・就寝〕	15:45	またねの会
20:00	入浴		
21:00	保護者懇親会・就寝		
22:00	全体就寝		

- 保護者プログラム
ワークショップ：「お母さん・お父さんのほ♡育園 ～NP・完璧な親なんていない～」
講師：NPO 法人吉備野工房ちみち
- 子どもプログラム①
ネイチャーゲーム
講師：岡山県シェアリングネイチャー協会
- 子どもプログラム②
ネイチャークラフト（自然素材を使ったペンダントを作成し，保護者にプレゼント）
指導：国立吉備青少年自然の家 企画指導専門職



【チャレンジゲーム】



【夜の探検(ろうそくの灯)】



【読み聞かせ】



【保護者プログラム】



【ネイチャーゲーム】



【ネイチャークラフト】

(3) 第4回

2月8日(土)		2月9日(日)	
14:30	受付 ※雪のため1時間遅らせて開始	6:00	起床・荷物整理
14:45	おひさしぶりの会	7:15	朝のつどい・朝食・移動
15:00	家族で選択活動〔凧作り凧あげ，ネイチャークラフト，ファミリーツリー，雪遊び〕	9:30	保護者・子ども・託児別プログラム
16:15	就寝説明・移動	12:15	昼食
17:20	夕べのつどい・夕食	13:15	スライドショー・感想発表会
18:45	選択活動〔天体観察，読み聞かせ，カプラ，自由，入浴・就寝〕	14:40	閉会式
20:00	入浴		
21:00	就寝		

□ 保護者プログラム

講義・実習：「コーチングスキルを学んで楽しく子育て」

講師：ミュキ・アカデミー 内藤 みゆき 氏

□ 子どもプログラム

雪だるま作り，焚き火，焼きマシュマロ，ネイチャーゲーム

指導：国立吉備青少年自然の家 企画指導専門職



【凧作り】



【ネイチャークラフト】



【雪遊び】



【天体観察】



【保護者プログラム】



【焼きマシュマロ】

4. 成果・課題

(1) 成果

□ 参加者（保護者）の満足度

事業全体の満足度は100%であった。

□ 保護者が子育てについて学ぶことができた。

保護者の感想には、「子どもに対する接し方が慌ただしい日常では主観的になってしまいうため、客観的な見方をしたい」や、「先生の講義を通じて今までの子育てを大いに反省し、今日から改善しようと思いました。子どもたちの置かれた環境をよく見てやり、焦らず、まずは目に見えない力を育てていきたいと思います。」などのように接し方を変えようとする方、「早寝早起きを実践することで、娘の情緒、行動が落ち着いてきました。本当にありがとうございました。」という方もおられた。

さらに、「夫婦で講義を一緒に受けると、一人で受けるのと比べて効果の違いを実感しました。」といった意見もいただいた。

□ 吉備で自然体験をすることで、自宅での体験活動も盛んになった。

吉備での体験を通じて、自宅でも「自然に関する遊び」に取り組むようになったことがうかがえる。

例えば、「子どもが植物に興味をもったため、夏野菜を植えました。」「公園遊びや自然体験を積極的に取り入れるようになりました。」「第二回に持ち帰ったヨモギでホットケーキを自分たちで焼き、翌日の朝食にしていた。まだ4才なのですが、2人で協力してホットプレートを出して作っていたのでビックリした。」といったエピソードをいただいた。

□ 同じメンバーで4回実施することで、家族間の仲が深まり「みんなで子育てをしている」という感情を育むことができた。

最終回で感想を共有した際に、「最初の回は他人のようであったが、今はとても居心地が良い。」「今ここにいる子ども達が大人になるまで、年に数回集まり、みんなで子どもたちの成長を見守りたい。」という意見があった。

(2) 課題

□ 講師の講義と活動に関連性をもたせる必要がある。

第4回では、2日目の講義で1日目の活動をふりかえる機会を設けることで、1泊2日の活動に流れをもたせることができた。

1日目は、自然体験という慣れない環境で、保護者と子どもと一緒に活動する機会を設け、保護者が子どもへの接し方を顕著にするように計画した。

2日目の講義で、その時の関わり方をイメージしていただくことでテーマである「子どもへの接し方」に関心を抱いていただくようにした。

このように、他の回についても、講義と活動とに関連性をもたせることで、より効果的なプログラムを検討する必要がある。

□ 卒業生が交流する場を用意し、「クラブ」として発展させる必要がある。

参加者の要望にもあったとおり、卒業生が集い、継続的に「子育て」について考える場を作ること、いずれはウーリークラブに参加した家族が運営の主体となるようにクラブを育む必要がある。

担当：企画指導専門職 渡邊 剛志